

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	卒業研究
科目基礎情報						
科目番号	1315000		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 10		
開設学科	電気コース		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	10		
教科書/教材	指導教員の指示による					
担当教員	中村 雄一,松本 高志,釜野 勝,長谷川 竜生,小松 実,小林 美緒,藤原 健志,香西 貴典					
到達目標						
1. 研究テーマの背景や工学的および社会的意義を説明できる。 2. 研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などの検討が担当教員指導下で主体的に実施できる。 3. 研究成果を英文概要付きの卒業研究論文にまとめ、プレゼンテーションできる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)	
到達目標1	主体的に研究テーマの背景や周辺知識、工学的意義をまとめ、説明できる。		担当教員の指導下で、研究テーマの背景や工学的意義を説明できる。		担当教員の指示に従い、研究テーマの背景や工学的意義を説明できる。	
到達目標2	主体的に研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などの検討ができる。		担当教員の指導下で、研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などの検討ができる。		担当教員の指示に従い、研究テーマを推進できる。	
到達目標3	主体的に研究成果を英文概要ト付きの卒業研究論文にまとめ、プレゼンテーションできる。		担当教員の指導下で、研究成果を英文概要付きの卒業研究論文にまとめ、プレゼンテーションできる。		担当教員の指示に従い、研究成果を英文概要付きの卒業研究論文にまとめることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	研究テーマを推進する過程において、4年生までに学んだ専門的知識を応用・活用して、与えられた課題や問題を解決するための実践力を身につける。また、社会貢献できる技術者としての素養を身につけるを目標とする。					
授業の進め方・方法	各研究室において担当教員による指導を受けながら、主体的に研究を遂行していく。プレゼンテーションは「中間発表」及び「卒業研究発表」を実施する予定である。最後に卒業研究論文を作成し、提出してもらう。					
注意点	課題に対して学生自らが十分に計画し、主体的かつ継続的に研究を遂行すること。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	調査・研究		研究背景の調査、実験、解析等を行い、結果の検討ができる。	
		2週	調査・研究		研究背景の調査、実験、解析等を行い、結果の検討ができる。	
		3週	調査・研究		研究背景の調査、実験、解析等を行い、結果の検討ができる。	
		4週	調査・研究		研究背景の調査、実験、解析等を行い、結果の検討ができる。	
		5週	調査・研究		研究背景の調査、実験、解析等を行い、結果の検討ができる。	
		6週	ゼミ発表		研究成果をまとめて発表することができる。	
		7週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
	2ndQ	8週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		9週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		10週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		11週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		12週	ゼミ発表		研究成果をまとめて発表することができる。	
		13週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		14週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		15週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
後期	3rdQ	1週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		2週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		3週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		4週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		5週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		6週	ゼミ発表		研究成果をまとめて発表することができる。	
		7週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		8週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
	4thQ	9週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		10週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	
		11週	研究の遂行		実験、解析等を行い、結果の検討、考察ができる。	

		12週	研究・論文作成	実験、解析等を行い、結果の検討、考察に基づき論文としてまとめることができる。
		13週	研究・論文作成	実験、解析等を行い、結果の検討、考察に基づき論文としてまとめることができる。
		14週	研究・論文作成	実験、解析等を行い、結果の検討、考察に基づき論文としてまとめることができる。
		15週	研究・論文作成	実験、解析等を行い、結果の検討、考察に基づき論文としてまとめることができる。
		16週	卒業研究発表会	研究成果を卒業研究論文、概要にまとめる、プレゼンテーションにより説明できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	電気・電子系分野【実験・実習能力】	電気・電子系【実験実習】	電圧・電流・電力などの電気諸量の測定が実践できる。	4	
				抵抗・インピーダンスの測定が実践できる。	4	
				オシロスコープを用いて実際の波形観測が実施できる。	4	
				電気・電子系の実験を安全に行うための基本知識を習得する。	4	
				キルヒホッフの法則を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				分流・分圧の関係を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				ブリッジ回路の平衡条件を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				重ねの理を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				インピーダンスの周波数特性を考慮し、実験結果を考察できる。	4	
				共振について、実験結果を考察できる。	4	
				増幅回路等(トランジスタ、オペアンプ)の動作に関する実験結果を考察できる。	4	
				論理回路の動作について実験結果を考察できる。	4	
				ダイオードの電氣的特性の測定法を習得し、その実験結果を考察できる。	4	
				トランジスタの電氣的特性の測定法を習得し、その実験結果を考察できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	ディジタルICの使用方法を習得する。	4	
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前1
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	前1
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前1
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前1
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	前1
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	前1
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前6
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前6
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前6
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前6
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前6
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	前6
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	前2
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	前2
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	前2
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	前16
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	前16
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前16
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	前16
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前16
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前7
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前7
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前7
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前7
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前7

				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	前16
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	前16
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	3	前16
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3	前16
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	3	前16
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	前16

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	30	0	30